

令和7年度 学校教育自己診断アンケート結果について

～児童・保護者の皆さまの声を受けて～

本年度も、学校教育自己診断アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。児童・保護者の皆さまからの回答をもとに、学校の現状と今後の取組みについてご報告いたします。概要と詳細、ご意見や質問に対する回答についてご覧いただければ幸いです。

結果概要

【1】児童アンケートより

- ①成果について: 11項目で肯定的回答が増加し、学校生活に安心感をもつ児童が増加した
「学校生活が楽しい」(85.3%)・「授業中、間違っても笑われない」(83.9%)・「落ち着いて学べる」(80.0%)・「考えを深めたり広げたりできる」(88.2%)・「自分に合った学び方を選ぶ」(92.9%)
・学級経営や教職員の関わりにより、安心して学べる環境が整ってきたことが伺えます。
・主体的・対話的な学びについても高い評価が見られました。
・総合学習・食育などへの満足度も高く、将来の目標や価値観の育ちも確認できました。
- ②課題について
「自分の考えを、自信をもって表現できる」(75.4%)・「意見発表の機会がある」(82.9%)
・自己表現に苦手意識のある児童が一定数おり、表現方法の多様化や成功体験の積み重ねを通して、意見発表への自信を育てていきます。

【2】保護者アンケートより

- ①成果について
「学校を楽しみにしている」(88.0%)・「安心して学校生活を送っている」(94.0%)・「分かりやすい授業づくり」(94.4%)・「交流しながら学ぶ場を設けている」(96.1%)
・お子さまの学校生活への安心感が、高い割合で示されました。
・「分かる授業」「学び合い」「学び方選択」など、授業改善の成果が安定して高く評価されました。
・学校からの情報発信・相談体制・地域連携についても高く評価されています。
- ②課題について
・授業への評価は高いものの、経年では微減の傾向。いじめ予防の項目が前年度より低下(88.3%)
・基礎学力への不安、タブレットの使い方、授業方法のバランスなど、多様なご意見が寄せられました。

【3】お寄せいただいた主なご意見と学校の対応

- ①分かりやすい授業と、自己選択・協働的な学びの両立をめざした授業づくりを継続
- ②子どもが発言しやすい話し合い活動の工夫、傾聴・コミュニケーションを再確認
- ③班登校の必要性を踏まえつつ、学校・地域・家庭が協力した安全確保
- ④互いを認め合う関係づくりを推進するとともに、さらなるいじめ予防・未然防止の強化

【4】おわりに

アンケートには約半数のご家庭からご回答をいただきました。温かい励ましの言葉、貴重なご意見の一つひとつが、学校改善の大切な材料となっています。今後も、子どもたちが安心して意欲的に学べる学校づくりに取り組んでまいります。

結果詳細

「令和7年度 学校教育自己診断アンケート(児童用)」の結果報告について

児童の皆様にご協力頂きました学校教育自己診断アンケート結果について報告致します。

まず成果として、11項目において肯定的回答割合が経年比較で上昇しました。特に、「1. 学校生活の中で楽しいと感じる：85.3%」、「2. 授業中間違ってても笑われない：83.9%」、「4. 授業は落ち着いた雰囲気

で学べる：80.0%」と大きく増加しており、安心して生活・学習できる環境が整ってきていると考えます。これらは、日々の学級経営や教職員の丁寧な関わりが、児童の心理的安全性の確保につながっている成果であると受け止めております。

また、主体的・対話的な学びの広がりがみられ、「7. 考えを深めたり広げたりできている：88.2%」、「8. 授業で自分に合った学び方を選べる：92.9%」と大きく増加しており、近年の校内研究や授業改善の取組みが着実に実を結んでいると考えます。

さらに、「12. 授業や給食で食の大切さを学んでいる：89.8%」、「13. 総合的な学習の時間が楽しい：94.4%」、「22. 将来の夢や目標を持っている：85.1%」、「23. 人の役に立つことは大切だと思う：97.2%」などの結果から、食育や探究的な

学びへの関心や満足度が高く、児童の価値観形成にも良い影響が生まれていることがうかがえます。

一方で、取り組むべき課題も明らかになっております。「5. 授業の中で、自分の意見を発表する機会がある：82.9%」、「6. 自信をもって自分の考えを表現できる：75.4%」と、肯定的回答割合が低くなっています。個別最適で協働的な学びが浸透しつつあるものの、自己表現の自信に十分結びついていない点が課題であると考えます。児童が「自分の意見が学級に貢献した」と実感できるような機会を増やしていきたいと考えます。また、自己表現力の向上については、口頭発表だけでなくタブレットや付箋の活用など、発表形式を多様化し、試行錯誤しながら表現力を高め、自分の意見が価値を持つ経験を重ねられるよう工夫してまいります。総じて、成果として表れていることはこれからも継続し、課題については組織的かつ継続的に取組みを進めることで、学校全体の学びの質を高めてまいります。

	令和7年度 学校教育自己診断アンケート 質問内容 (児童用)	R7年度 肯定的 回答率 (%)	R6年度 肯定的 回答率 (%)	R5年度 肯定的 回答率 (%)
1	学校生活の中で、楽しいと感じることがある。	85.3	83.4	83.4
2	授業中、間違っても笑われない。	83.9	74.9	-
3	あなたの気持ちをわかってくれる友達が学校にいる。	92.1	93.9	93.2
4	授業は落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる。	80.0	70.5	67.2
5	授業の中で、自分の意見を発表する機会がある。	82.9	89.3	87.6
6	自信をもって、自分の考えを表現することができる。	75.4	-	-
7	授業で自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.2	73.9	73.9
8	授業で自分にあった方法や学び方、選ぶことができる。	92.9	74.2	-
9	授業中、困ったり悩んだりしたとき、友達と相談し協力できる。	88.4	-	-
10	課題や問題を解決するため、様々な方法を見つけ、実行できる。	85.9	72.3	-
11	授業の中でタブレットを自分の判断で自由に使うことができる。	62.5	55.2	-
12	授業や給食で食の大切さを学んでいる。	89.8	84.7	81.5
13	総合的な学習の時間の授業は楽しい	94.4	-	-
14	家庭での学習(宿題)は、授業とつながっていると思う。	90.2	83.1	83.6
15	自分で計画を立てて勉強している。	75.4	75.5	65.6
16	自分には良いところがある。	84.9	87.4	81.7
17	先生は学習や係活動で頑張ったことをほめてくれる。	86.8	79.1	79.8
18	あなたはあいさつや約束を守ることを大切にしている。	92.9	93.3	92.2
19	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	95.7	95.3	94.1
20	学級生活をより良くするために互いのよさを生かすことができる。	78.2	75.1	-
21	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	79.8	-	-
22	将来の夢や目標を持っている	85.1	-	-
23	人の役に立つことは大切だと思う	97.2	-	-

「令和7年度 学校教育自己診断アンケート（保護者用）」の結果報告について

保護者の皆様にご協力頂きました学校教育自己診断アンケート結果について報告致します。例年と比較して、「1.子どもは学校へ行くのを楽しみにしている：88.0%」、「3.子どもは安心して学校生活を送っている：94.0%」と高い肯定率であり、日頃の学級経営や環境整備が子どもたちの安定した学校生活につながっているものと受け止めております。

授業面では、「2.先生は分かりやすい授業づくりに努力している：94.4%」、「13.先生は友だち同士で交流しながら考えを広げる場面を作っている：96.1%」、「14.先生は子どもがどのように学習するか選択する場面を作っている：90.7%」と、分かる授業・協働的な学び・学び方の選択に関する評価が安定的に高く、近年の授業改善の取組みが一定の成果を上げていると考えております。

また、家庭や地域との連携に関しましては、

「7.学校の様子が学校学年だより、ブログ等でよくわかる：96.5%」、「10.学校は保護者の相談に応じてくれる：96.0%」、「12.学校は保護者や地域との連携・協力を努めている：94.7%」と、情報発信・相談体制・家庭地域連携のいずれも高く評価いただいております。

総じて、「安心して通える学校」「分かる授業と子どもの主体性を大切にする学校」「家庭や地域とつながる開かれた学校」としての基盤を、保護者の皆さまとともに育てているものと考えております。

一方で、今後の改善に向けて取り組むべき課題も明確になっております。まず、「2.先生は分かりやすい授業づくりに努力している：94.4%」、「4.先生は子どもの意見や考えを大切にしている：93.2%」と、授業づくりに関して高評価をいただく一方、経年推移で見ると微減傾向も見られ、学びの深まりと分かりやすさの両立を今後も粘り強く追求する必要があると考えております。また、「8.学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる：88.3%」と高水準ではあるものの、前年度比で大きく低下しており、予防・未然防止の取組みをより一層厚くする必要があると受け止めております。

上記の成果と課題を踏まえ、次の三つの柱で改善を進めてまいります。第一に、いじめ予防・未然防止については、学級会や道徳での対話型学習の充実、早期サインの共有、学年・専門スタッフと連携した支援体制の強化を行い、日常の中で「認め合う関係」を育てまいります。第二に、学習の質を高めるべく、教師が子ども達をつなぎながら、自己選択・自己決定を促し、協働して学ぶ場面の充実と分かる授業づくりに努めます。第三に、家庭・地域とつながるために、学校・学年だよりやブログ等の情報発信を今後も丁寧に継続し、保護者懇談や個別相談は対面・オンライン・電話等の選択肢を組み合わせ、参加しやすい形へと工夫してまいります。これらを教職員一丸で計画的に進め、子どもたちが安心して意欲的に学べる学校づくりをさらに充実させてまいります。

令和7年度 学校教育自己診断アンケート 質問内容 (保護者用)		R7年度 肯定的 回答率 (%)	R6年度 肯定的 回答率 (%)	R5年度 肯定的 回答率 (%)
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	88.0	85.1	89.0
2	先生は分かりやすい授業づくりに努力している。	94.4	95.9	94.7
3	子どもは安心して学校生活を送っている。	94.0	-	-
4	先生は子どもの意見や考えを大切にしている。	93.2	96.3	96.1
5	学校は子どもに、これからの社会に必要な力を身に付けさせている。	92.4	-	-
6	子どもは、タブレット端末を有効に活用している。	80.6	-	-
7	学校の様子や内容が、学校・学年だより、ブログ等でよくわかる。	96.5	92.4	92.3
8	学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる。	88.3	94.4	93.5
9	学校は児童の安全確保に努めている。	95.0	98.4	94.9
10	学校は保護者の相談に応じてくれる。	96.0	95.4	93.2
11	授業参観や懇談会の回数は適切である。	95.6	-	-
12	学校は、保護者や地域との連携・協力を努めている。	94.7	93.8	90.9
13	先生は友だち同士で交流しながら、考えを広げる場面を作っている。	96.1	-	-
14	先生は、子どもがどのように学習するか選択する場面を作っている。	90.7	-	-
15	子どもと家で「食」に関する話をすることがある。	86.7	-	-

ご意見やご質問に対する学校からの回答

ご意見等を12のカテゴリごとにまとめ、「Q & A形式」で紹介・回答させていただきます。回答内容について個別に相談を希望される場合は、遠慮なく学校までご連絡ください。

1. 感謝やお礼について

- ・「いつもありがとうございます」（複数）
- ・「6年間ありがとうございました。卒業まで残り少ないですが、穏やかな気持ちで卒業進学できることを願っています。よろしくお願い致します。」
- ・「とてもよいクラスだと子供がいつも話しています。先生には感謝しています。」
- ・「いつも丁寧な指導をして頂き、たいへんありがたく思っております。」
- ・「学校での温かい指導に大変感謝しております。」
- ・「先生やお友だちに恵まれて、毎日楽しく登校しています。」

温かい励ましのお言葉を多数頂き、教職員一同、大変励みとなっております。「学校が楽しい」「先生に感謝している」といったお声は、何よりの力になります。引き続き、子どもたちの安心と成長を第一に取り組んでまいります。

2. 学習・授業について

- ・「算数は自分達で進めるのではなく先生から授業を教えて貰いたい。隣の津田小のように少人数制で算数の授業を行って貰いたい。」
- ・「最近の授業の仕方が自分達で考えよう！スタイルで基本が何もわかっていないのに子供に考えさせて何も理解できていない。塾に行かなければついていけない。タブレットで問題をやらせるのもそろそろやめたほうがいい。成績がみるみる下がっています。」
- ・「算数と国語の基礎学力の徹底が探究の名の下、教育現場でおろそかになっていると強く思います。基礎学力の担保が無いと豊かな発想は、出てこないです。小学校時代は、徹底した読み書きと計算の基礎学力を学校の間でも学ばせて欲しいです。算数は、しっかり割合や速さなど定義を分かりやすく教えて理解させることが先決です。探究活動も何も出来ないでしょうね。」
- ・「授業内外で『子どもたち自身に考えさせる』取り組みが顕著になっていますが、その方針がすべての場面で子どもたちにとって最適なのか疑問を感じています。道徳など自分で考えることが特に重要な教科では有効だと思います。しかし算数など、特に初めて学ぶ単元においても、子どもたちが自分で教科書を読み、クラス内で教え合い、分からなければ先生に質問に行くという方法をとっていると子どもから聞きました。もちろん、その方法で理解できる子もいると思います。ただ、初めて触れる内容の導入としては、やはり先生からの丁寧な説明が不可欠ではないでしょうか。iPadを活用し、自ら考える学習方針が有効な場面もあると思いますが、従来のように先生の説明が重要な場合も多いと感じています。実際、説明が上手な先生のお話を聞くことで、その教科が楽しく感じられたり、学問への興味が湧いたりすることは少なくありません。今回の件は津田南小学校だけの方針というより、より大きな枠組みで進められている取り組みだと思うため、簡単に変えられないことは承知していますが、日頃から疑問を抱いており、今一度ご検討いただければ幸いです。」
- ・「子供が勉強を分からないまま帰ってきていると感じることが多い。」
- ・「タブレット使用以外の授業も行って貰いたいです。」
- ・「担任の先生が休みの日のフォローがどうなっているのか気になります。先生によって授業の方法は違うと思いますが、急にノートではなくタブレットの授業になると子供もやり方が違うので困惑していました。」
- ・「勉強することが増えているように思うが自分の子供時代より勉強時間が少なかったり、宿題が少なかったりする感じがしている。」
- ・「塾に行っている前提で考えられているような気がしますが、塾に行っていない子も最低限は出来るようにフォローしてもらえそうなシステムがあればいいと思います。」

算数少人数指導については本校も数年前までは行っておりましたが、教員加配など制度上の条件が必要な点や学校方針の違いから現在は実施しておりません。本校では、小学校においても教科担任制を取り入れていく方針が国や府から示されたこともあり、子どもたち一人ひとりの学びをより充実させるため、3年生以上で教科担任制を一部取り入れています。

教科ごとに専門性をもつ教員が授業を担当することで、学習内容への理解が深まりやすくなるとともに、複数の教員が児童に関わることで、多くの視点で児童を見るとともに、関係性が構築できると考えています。

また、「自ら考える力を育てる」学習が重視されている一方、基礎が分かっていない段階で考えさせても、理解につながらないというご心配はもっともです。基礎学力の定着は学校教育の土台であることや、その上で探究的な学びが成立するという点については、学校もまったく同じ考えです。

算数に限らず特に初めて学ぶ単元では、教師の説明や解説も重要であると学校も認識しています。特に国語・算数については、読み・書き・計算の確実な習得、重要な語句・概念の丁寧な指導、定着確認（小テストなど）が必須と考え、その充実にも努めております。「探究的な学び」と「基礎学力の定着」は対立するものではなく、どちらも必要です。基礎事項の確実な理解を前提とした授業展開が行えるよう指導の徹底を図ります。

また、学校としても『丸投げの児童主体の学習』になっていないか、必要な知識を十分に獲得した上での活動になっているか、授業の振り返りや理解状況の把握が十分であったか、個別のつまずきに対してフォローができてきているか等を、改めて教職員と確認しながら授業改善を進めてまいります。

また、ご指摘の通り、国や市の方針で「子ども主体の学び」が重視されていることも事実です。しかし、先述の通り「基礎的・基本的な知識の確実な定着」と「主体的・対話的で深い学び」の両立が大切だと考えております。したがって、すべての場面で子どもに任せるのではなく、教師主導の場面も必要不可欠であると学校も考えております。一方で、考える力や学び合い（協働学習）も大切であり、教える場面と考えさせる場面のバランスが最も重要であり、最も難しいところです。すぐに明確な答えは出せませんが、タブレット活用も含め、授業方法が子どもにとって最適なものとなるよう、学年・学校全体で見直しを進め、「分かる授業」を大切に、安心して学べる環境づくりを強化してまいります。

担任不在時の代替授業については、まずは子どもたちを第一に考え、教科・学年の方針を共有し、できるだけ統一的な流れで対応できるよう心掛けます。また、勉強時間については、本校では、国から標準授業時数を大幅に上回る授業時数の見直しについての通知があったことから、精査し標準時数に学級閉鎖等の予備20～40時間をプラスした授業時数を設定しています。家庭学習については、家庭学習のめやす（時間・教科・内容例）を年度初めに提示し、音読・計算・漢字・プリント等を宿題としております。加えて、やらされるばかりではなく自ら学習意欲をもって取り組むための自主学習を提示しています。

また、「塾に行かないと理解できない」という状況は、学校として望むべきものではありません。学校の授業だけで必要な学力が身につくよう、引き続き指導の徹底にも取り組みます。

3. タブレットについて

・タイピング力がぐんっと上がり驚いております。我が子はまだまだ至りませんが、タブレット=学習用具という認識が今年度になり徐々に深まってきているように思います。」

タイピング習得や学習への前向きな変化についてのお声をいただき、ありがとうございます。ICTはこれからの学びに生きる力ですので、引き続き適切に活用していきます。なお、ご指摘の通りタブレットはあくまで『学習を補助するための道具』です。教科書やノート等とのバランスや、子どもにとって使いやすいタイミング、デジタルで行う必然性などを考えながら適切な使用にするよう進めていきます。

4. クラス運営について

- ・「落ち着きがなく手を煩わせているかと思いますが、色々な先生が関わってくださり助かっています。これまで一度も学校へ行くことを嫌がらずにこられているのは先生方のお陰だと思っています。先生の悪い話も一度も聞いたことがありません。津田南小でよかったです。ありがとうございます。給食のレシピを持って帰ってきて、家で子どもが作っていました。またあるとうれしいなあと思います。」
- ・「クラス便りをこまめに作っていただけるのでクラスの雰囲気が伝わってきます。丁寧に連絡をしていただき申し訳ないと思うほどですが、安心でき、信頼もしています。」
- ・「学級通信を作成してくださり、学級の様子がよくわかりました。ありがとうございます。」
- ・「同じ学年でもクラスによって学級便りがなかったりイベントがなかったりすることが気になる。統一してほしい。」
- ・「力関係強い子ばかりが意見しているので、周りの静かな人は迷惑しているみたいです。」
- ・「先生の機嫌が悪い時は話出来ないと言っています。」
- ・「クラスに馴染めているか分かりにくい。」

子どもたちの成長をご家庭とともに喜び合えることは、私たちにとって大きな励みです。また、学級便りやこまめな連絡等により、学校の様子が良く分かり安心につながっているということも大変励みになります。もちろん、学級便りや日々の情報発信は、学校と家庭をつなぐ大切な役割を担っており、学校としても重視しております。しかし、全クラスで同じ内容・頻度で必ず発信することには、担任ごとに学級の状況・児童数・支援の必要度が異なり、便り作成の時間が確保しにくい場合もあります。また、教材研究や採点、学年行事の準備など、日によって教師の業務量が大きく困難な場合があります。とはいえ、保護者の皆様へ必要な情報が届くようにすることは非常に重要であるため、学年で最低限の共通項目を設定しつつ、各学級の実情に応じた柔軟な運用を行ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

教員の関わり方については、児童がいつでも声をかけやすい雰囲気づくりを再確認し、感情のコントロールや傾聴について継続して取組みを進めます。また話し合い活動では、発言ルールの明示・役割分担・全員発言の機会設定をするなど、様々な児童の思いもすくい上げられるよう意識を高めるとともに、学年での統一性と各学級の工夫が両立するような、安心して通える学級経営に取り組めます。

5. 保護者との連携について

- ・「ロイロでの連絡帳配信だとログイン関係で手間なので、ロイロもまなびポケットにも、どちらにも連絡帳がのっていると助かります。」
- ・「親が参加するイベントが多すぎる。」
- ・「任意の懇談を増やして欲しいです。」（複数）

次年度は、年度当初の家庭訪問（希望制）に代えて、すべての保護者を対象にお子さまについてお話しする個人懇談（オンライン含む）の機会を設ける予定です。新年度のスタートにあたり、学校とご家庭がしっかりと情報共有し、お子さまの成長を共に支えていくための大切な時間としたいと考えております。また、学期末の個人懇談については、基本的には全保護者を対象として実施致しますが、必ずしも必要がないという保護者には希望しないといった選択肢も考えております。もちろん、懇談や家庭訪問はこれらの機会に限らず、日々の学校教育の中で必要と判断した場合や、ご家庭からのご希望があった場合には随時実施してまいります。任意の懇談の希望がある場合は、どうぞ遠慮なくご相談ください。

6. 登校班について

- ・「登校班で登校するシステムは、やめていいのではないかと思います。どうせバラバラになるので、いなくなっても分からない。必要な家庭はGPSなどで管理されていると思う。」
- ・「学校で対応できること、できないことははっきりと示し、できないことはどこへ頼ればいいのかを伝えていっても良いと感じる。直近でPTAが任意となり、登校班に関する負担が学校になるため、線引きはしておくべきだ。大阪市のように、登校班解体でも良いと思う。」
- ・「来年度からの登校班を先生方が決めてくださること、ありがとうございます。子どもにとって、一日のはじまりである登校班での問題は、学校生活で決して小さくない問題です。個人懇談でお話しさせていただきましたが、班編成についての希望をお聞き届けさせていただきますよう、お願い致します。」

登校班について様々なご意見をありがとうございます。これについては、後日改めて登校班や安全管理について学校からのお願いとして文書を提示させていただきますが、登校の安全確保は、学校・地域・家庭が連携して取り組む課題と捉えています。

まず、通学指導や安全教育は学校の責務ですが、集合場所や通学路の見守り等は、家庭や地域とも連携して進めるものと考えております。ご指摘の通り、PTAが任意制となり、これまで班編成や見守り等を担って頂いていた生活指導委員会がなくなることにより、大阪市や高槻市等のように登校班を設けないことも検討しました。しかしながら、班登校は①交通安全の確保②防犯上の効果③見守り隊の把握④異学年交流による成長等、子どもたちの安全や成長を見守る上で一定の役割を果たしているものと考えます。一方で、「バラバラになり実効性に疑問」・「GPSで代替」というご意見についてもご指摘の通りと感じるところもあります。

学校ができることには、限度がありますが、今後も学校・地域・家庭が協力しながら、安全で安心できる登校体制の維持に努めてまいりたいと思います。

7. 学校体制について

- ・「人数の規定があるかもしれませんが1年生で1クラス30人を超える環境は先生が細かいところまで見るには大変だったと思います。低学年のうちは少人数クラスの設置をして欲しいです。」

ご指摘の通り、低学年ほど一人ひとりへの細やかな支援が必要であり、担任の負担や児童の学びやすさの点からも、少人数での指導が望ましいという思いは学校としてもまさしく同じです。

しかし、学級編成は国や市の定める基準に基づいており、学校単独で少人数クラスを設置することは難しいのが現状です。ただしその中でも、支援員の配置や学年全体での協力体制等、できる限り丁寧に子どもたちを見る環境づくりに努めております。今後も、子どもたちの安心と成長を第一に、学校全体で支援体制の充実を図ってまいります。

8. 校庭開放について

- ・「現在も実施されていますか。利用対象についても教えていただけると助かります。」

現在、本校としての校庭開放は実施しておりません。放課後の校庭については、留守家庭児童会（学童）やオープンスクエア登録児童の安全な遊び場として活用している状況です。児童の自由利用は行っておりませんが、引き続き子どもたちの安全を確保しながら、校庭の適切な管理に努めてまいります。

9. いじめ対応について

- ・「どんな小さいいじめも、見逃さないでください」

「どんな小さいいじめも見逃さないでほしい」という真摯なお声をいただき、深く受け止めております。本校では、日々の児童観察、アンケート、個別面談、学校全体での情報共有などを通じ、小さなサインの段階で気づき、迅速に対応することを最重要の方針としています。（必然的にいじめの認知件数は上がりますが、それが国の方針です）また、子どもが声を上げやすい環境づくりにも取り組んでいます。今後も、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの安心と安全を守るため全力で努めてまいります。

10. 図書館教育について

- ・「図書を充実してほしいとの子どもからの意見がありました。」

本校では、今年度より学校司書が専任配置され、図書整理・選書・読み聞かせ支援などの活動を進めております。また、児童の興味や学習内容に応じて、新しい本の購入を計画的に進め、蔵書の充実を図っているところです。これからも、子どもたちが本に親しみ、読書の楽しさを広げられるよう、学校図書館環境の整備に努めてまいります。

11. 学校ブログについて

- ・「赤い点線の位置の関係で、投稿の区切りが少し分かりにくく感じます。」

学校ブログをご覧頂きありがとうございます。投稿区切りが見えにくいのご指摘について、現在使用しているブログ形式は枚方市で統一されたものであります。細かなところまでは分かりかねますが、区切り線や余白の調整等、2026年度のブログ更新に合わせてできる所は改善してまいります。お気づきの点があれば、引き続きお知らせください。

12. その他

- ・「夏休みや春休みの前に、お道具箱と教科書類を持って帰ってこさせないでほしい。荷物が多すぎる。適宜補充すれば良いと思う。」
- ・「夏休みと冬休みに、お道具箱や教科書類をすべて持って帰ってくるのをやめてほしい。それでなくても荷物が多いので。必要なものだけ補充するようにしてほしい。」

教科書類やお道具箱を一度すべて持ち帰っていただいていたのは、休業中の紛失防止や清掃・補充、保護者の方に中身をご確認いただく目的があります。（教科によっては、クラス等で保管しているものもあります）

ただし、タブレットもあり荷物が多くなるというご負担は十分に理解しております。今後は、すべてを一度に持ち帰らせるのではなく、分散して持ち帰り、持ってくる等を心掛けるとともに、学年ごとに持ち帰り内容を精査し、軽減できる部分は見直していく方針です。

最後に、今回の学校教育アンケートにお忙しいなか約半数のご家庭から回答いただきました。学校改善のため大変貴重な材料となりました。頂いたご意見は真摯に受け止め、よりよい教育活動につなげてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。